

留 学 報 告 書

記入日:2021年8月13日

所属学部／研究科・学科／専攻	文学部真理社会学科哲学専攻
留学先国	フィリピン
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: フィリピン大学ディリマン校 現地言語: University of the Philippines Diliman
留学期間	2021年3月～2021年6月
留学した時の学年	4年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	年 月 日
明治大学卒業予定年	2022年3月
留学先大学について	
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:3月～6月 2学期:8月～1月 3学期: 4学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	
創立年	

留学費用項目	現地通貨 ()	円	備考
授業料		円	
宿舍費		円	
食費		円	
図書費		円	
学用品費		円	
携帯・インターネット費		円	
現地交通費		円	(<input type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		円	
被服費		円	
医療費		円	
保険費		円	形態:
渡航旅費		円	
ビザ申請費		円	
雑費		円	
その他		円	
その他		円	
合計		円	

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
3単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() ・履修の制限はありましたか？	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Econ 198 Internatinal Agreements and Development policy	国際協定と開発政策
科目設置学部・研究科	経済学部
履修期間	2学期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	オンデマンド型講義(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に180分が1回
担当教授	Manuel F. Montes
授業内容	TPP, RCEP, URSMCAなどの自由貿易協定について、その内容や性質を学ぶ。
試験・課題など	テストが3回あり、四択式で一度に40~60問程度出題される。それ以外の課題はなし。経済学部の学生が主催するイベントに参加すると、インセンティブとして加点がもらえることがあった。
感想を自由記入	授業の内容は日本が例として取り上げられることも多く、フィリピンから見た日本の姿について考えることができた。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Philo114 Phenomenology and Existentialism	現象学と実存主義
科目設置学部・研究科	文学部
履修期間	2学期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	オンデマンド型講義(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に120分が2回
担当教授	Jairus Diesta Espiritu
授業内容	Reinhardt GrossmannのPhenomenology and Existentialismという本を使用し、デカルト、ブレンターノ、キルケゴール、フッサール、ハイデガー、サルトルについてその概要を学ぶ。
試験・課題など	期末には2000wordsのレポートと、グループプレゼンテーション。加えて、隔週で先生が用意したリーディングクエスチョンに対して、ポータブルサイト上でディスカッションを行う。
感想を自由記入	先生は、数年前に北海道大学で行われた学会で、現在早稲田大学教授の森岡正博氏の発表を見て、人生の意味について研究を始めたそう。授業は10名ほどでディスカッションが盛んだった。生徒同士のディスカッションは話すスピードが早い上、フィリピン語が混ざるのについていくのにかなり苦労する。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)
<input checked="" type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など
マイナビ、Unistyle、外資就活
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません) ※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。
アクセンチュア株式会社 社会人として必要なビジネススキルを早く身に付けられ、その上社内でも、転職するにしても自分のキャリアプランを自分で選択できる環境である点が良いと思った。また多様性があるからこそチームの強みが発揮されるという会社の方針に共感したから。
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。 (例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。) ※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。
今回はオンライン留学と就職活動、さらに明治大学での卒論の執筆の開始の時期が重なり、一時期はかなりつらい思いをした。自分では全力で頑張っているのに、全てが中途半端になってしまっているようで自分が情けなく思えた。しかし、特に就職活動ではその努力を認めてくれる企業もあり、自分が経験してきた苦労やそれを乗り越えた経験が生きた。私は慣れないオンライン留学の中就活を進めたが、実際に第一志望の企業から内定を得ることができ、諦めずに頑張ってきたと心底感じた。私は参加していないが、ポストンキャリアフォーラムなど、留学生むけの就活イベントも例年は多数開催されている。就活と留学の両立は大変ではあるが、就活において留学の経験が不利になることはないので、是非留学に挑戦して欲しいと思う。
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。
7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例:語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等

2018年 1月～3月	
4月～7月	大学入学
8月～9月	フィリピン、エンデラン大学へ1ヶ月半の語学研修へいく
10月～12月	

2019年 1月～3月	
4月～7月	
8月～9月	交換留学を志す IELTSに向けて勉強
10月～12月	IELTS 取得
2020年 1月～3月	
4月～7月	留学延期が決定する
8月～9月	
10月～12月	オンライン留学開始のために再度調整、書類のやりとりなど。

留学体験記

1年生の夏に語学研修でフィリピンへ行き、貧富の差を目の当たりにしたことがきっかけで発展途上国での暮らしや経済開発についてより学びたいと考え、フィリピン大学への交換留学を決めました。コロナの影響もあり実際に渡航することは叶わなかったのですが、現地の生徒にと話をしたりSNSの投稿などからもこれまでに知り得なかったフィリピンの暮らしを垣間見ることができました。

またフィリピン大学の学生はとても勉強熱心でかつ親切です。テストの時期だけでなく、普段からメッセージで何か困ったことはないかと気にかけてくれ、私自身安心して授業に臨むことができました。さらに大学のスタッフの方は、私のために毎週1～2時間ほどzoomで英語のレッスンをしてくださり、日常のことからフィリピンの政治についてまで様々なことを教えていただき、意見を交わしました。時にはゲストとしてフィリピン大学の学生を招待してくださったり、楽しい企画を考えて下さりました。

オンライン留学だったこと、フィリピン大学の今期唯一の留学生だったこと、就職活動、卒論の執筆との両立など、コロナウイルスの影響によって色々イレギュラーなことが重なってしまいましたがこの留学は多くの苦労を乗り越えて良い経験となりました。もちろんうまくいわずに悔しい思いをしたこともたくさんありますが、それらも今後の糧になると思います。留学は大きな決断かもしれませんが、自分でやると決めてしまえばあとはやるしかありません。留学してみたいと思う方は是非迷わず挑戦してみてくださいと思います。